

ゼミ用 Wiki の有効性について

中西 亜由美

目 次

1	序論	1
1	1 テーマ	1
2	2 PukiWiki で作る理由	1
3	3 XOOPS やブログなど他の CMS との比較	3
4	4 大学の共有フォルダとの比較	5
2	ゼミ用 Wiki サイトの制作	6
1	1 制作目的	6
2	2 誰のためにつくるか	7
3	3 Wiki の現状認識	7
3	制作に至るまで	8
1	1 制作準備	8
2	2 既存のサイトの主な用途	8
3	3 見やすい Wiki サイトの検証	9
4	制作物について	10
1	1 PukiWiki を使ったサイトの構想	10
2	2 ページの分類方法	11
3	3 制作過程での工夫	13
5	まとめ	16
1	1 アンケートによる評価	16
2	2 今後の問題と展望	19
3	3 自己評価	21

1 序論

(1) テーマ

福田ゼミでは「人のために役立つものづくり」をコンセプトとしている。そこで、私はゼミ用の Wiki を作り直し、ゼミ用 Wiki の有効性について卒業論文を制作することにした。それは、前々から既存のゼミ用のウェブサイトがあまり活用されていないと感じていたためである。たとえば、毎回情報が更新されれば先生からメールで知らせてもらっている。そして、そのことを前提としてサイトを見れば、どこが更新されているのかが一目で分かる。しかし、個人的に古い情報を探そうと思った時にはとても見難い。新しい情報さえ分かれば、他の情報は見ない。見ないために、同じ授業でも以前どのような内容だったか知る気も起きなく、せっかくある有益な情報でも逃してしまっているのではないだろうかと感じたためである。

(2) PukiWiki で作る理由

今日、blog や SNS や Wiki などによって多くのユーザが発信する大量の情報が相互作用を起こし、次の新しい価値が生み出されている。このような情報共有は、ゼミでも新しい問題点の発見としてとても有益であると考えた。

その中でも、情報共有としての Wiki は、Wiki の代表として知られている Wikipedia⁽¹⁾の登場で、コラボレーションサイトを構築するツールとして使い物になるということが証明された。しかし Wikipedia と Wiki は別物で、Wiki はあくまでもコラボレーションを行なうツールであり、Wikipedia は Wiki を利用して構築されたコンテンツである。

Wiki の一般的な利用方法は、インターネット上に誰でも編集でき

る Web サイトを作り、テーマに沿った情報を書き込んでいくことである。そして現在、日本語で利用できる Wiki には、YukiWiki をはじめ TiddlyWiki・MediaWiki など多くの Wiki がある。その中でも私は PukiWiki を利用した。理由としては、既存のサイトが PukiWiki によって作られているということと、多くの情報を一カ所に集約するには通常のウェブページより Wiki の方が適していると考えたためである。また、PHP が動く環境さえあれば導入することができ、比較的容易にサイトを作ることができる。そのため非常に広範囲の用途で使えるという手軽さを感じた。他にも、プラグインが最も豊富であるため、目的に応じて改良ができ、導入してからも使いながらスタイルを作り出していくことができる点、過去の使用実績と保守・カスタマイズの容易性がある。このことから、管理者が変わった場合や、他のゼミのサイトでもテンプレート的なものとして応用がきき、その人の好みでカスタマイズできる点で融通が利くと感じたためである。

しかし、Wiki 自体は情報共有の専用ツールではないため、使い勝手は完璧とはいえない。それらを補うために、掲示板やバグ管理システム (BTS) などの機能がある。また、「すぐ消すから」や「とりあえず」というように使えるメモ帳代わりのような機能が数多く存在している。このことから、誰でも参照でき、メモ帳であり、ネットワーク上の連絡板であり、管理者とユーザが共同で文書をまとめる作業所ともいえる。

PukiWiki はサーバ側のプログラムで Wiki 構文のタグを HTML に変換している。そのため、HTML の知識がなくてもリストやリンクを簡単に作成できる。HTML に慣れ親しんだ人にとっては面倒だという意見もあるようだが、HTML などと比べて簡潔なので覚えやすく閉じタグを忘れる、スペルミスといったタグの凡ミスをすることがないた

め、初心者にとっては助かる。ただ、Wiki クローンによって多少表現の方法が異なるので注意しなければならない。PukiWiki では大見出しを「*」で表現するのに対し、他の Wiki では「!!!」で囲むという方法が取られていた。各 Wiki クローンごとプラグインも異なる場合がある。次々に出来ている Wiki サービスは機能を強化する方向にあり、プロバイダー側も差別化の一環として様々な機能を追加している。その結果、互換性があまりよくない。Wiki 文法の標準化という話も出ており、WYSIWYG 機能²⁾を搭載しようという動きもある。

このようなことから、多くの大学のゼミで Wiki を利用しているのだと考えられる。また、大学のゼミや個人サイト以外に、企業も PukiWiki を基に情報共有ツールとして様々な活用方法が研究されている。それだけ応用も効くツールだと感じた。

(3) XOOPS やブログなど他の CMS との比較

今日、Web を利用したコラボレーションツールとして、ブログが多く普及している。また、Wiki と同様に XOOPS の活用も多く見られている。ブログも XOOPS も Wiki も広い意味では CMS の一種である。しかし、ここでは XOOPS やブログを CMS として、Wiki を別のものとして比較してみる。

CMS は、最新情報を記事として掲載、あるいは掲示板にアップされる。そして、コメントやトラックバックで反応を見ながらコンテンツを追加する。ただ、Wiki のように履歴が残らないので、間違って記事を削除や編集してしまうと元のデータは消える。そのため、速報性には高く優れているものの、編集・追加して行くという面では CMS は弱い。その点で、Wiki はじっくり落ち着いて文章を練り、体系立てて文書を

作成することができる。また、いつどのように編集・修正したか差分も分かり、いつでもどの時点のコンテンツへでも復帰させることができる。そのため安心して修正を行うことができる。古い記事を参照する場合でも、CMS は時系列に情報を蓄積し、参照されにくくなった古い記事は不必要になり消してしまう場合がある。一方 Wiki は、時系列に情報を蓄積しないので、関連のあるページにサイト内でリンク付けを行うことで情報の再利用ができる。

XOOPS は PHP で書かれている点では PukiWiki と同じだが、コンテンツを保存するデータベースとして MySQL を用いている点⁽³⁾と、必ず ID・パスワードが必要な点で異なる。ID やパスワードが未登録の場合は、閲覧のみになる。荒しや SPAM に対するセキュリティの面では、PukiWiki よりも XOOPS の方がしっかりできている。しかし、ゼミで活用する場合は、毎年卒業生もいれば、新入生もいる。その都度登録管理をするには手間がかかる。その面から PukiWiki の方がゼミに向いているように思えた。

また、XOOPS は日本人によって開発されたため、他の CMS にあるような日本語の文字列処理に関する問題が少ないのが特徴⁽⁴⁾であるが、その分、高機能なので一般、特に初心者向けではないという意見もある。インストールや初期構築は簡単だが、動作や画面表示細部に関わる構造には、HTML・CSS・PHP・MySQL などの知識が不可欠になるためである。そのため、XOOPS よりも容易に運営できる PukiWiki の方が普及したのではないかと考えた。管理面においては、Wiki の管理者はコンテンツやコミュニティの管理が重要な役割であり、XOOPS などの CMS では記事の作成と編集が重要な役割である。このことからゼミのサイトを運営する場合、忙しい教員方の手間を省くには PukiWiki の方

が時間的に考えると手軽で、運営しやすいのだと感じた。

(4) 大学の共有フォルダとの比較

情報の共有の手段として、大学側で設置されている共有フォルダがある。主に授業で必要になったファイルを置くことを中心に使用されている。そこで、わざわざインターネット上で Wiki を使い情報を共有する必要があるのであるのかを考えた。

まず閲覧できる環境に着目した。情報はウェブ上にあった方が閲覧しやすい。大学の共有フォルダの場合だと、大学内のパソコンからのみのアクセスになる。もし大学を出て、知りたい情報があった場合には閲覧することができない。一方 Wiki はデータをウェブ上で管理するので、この点では Wiki の方が情報共有の環境に向いている。インターネットに接続する環境があれば、知りたい情報をいつでも閲覧することができるためである。また、Wiki は授業中でもすぐに、インターネット上に記事をアップできる。これがもし、一般で知られているウェブページだと、その都度 HTML で書きページを作成しなければならない。もし、自宅などの学外で学校の授業で必要になった情報やファイルなど閲覧したいと思った場合、学校の共有フォルダでは自宅から見れないという事態を避けられる。ただ、PukiWiki は画像ファイルを置くことができるが、その他のデータファイルを置くことができない。それは、添付ファイルのサイズの上限が 1MB に初期設定されていることもある。現在、データファイルをアップできるプラグインも開発されている⁽⁵⁾ようだが、試験段階でセキュリティの面でも心配な面は多いと感じた。

次に、情報の探しやすさの面に着目した。やはり共有フォルダでは目的のファイルを探すのに苦労する。共有フォルダの中には、各教員の

フォルダがあり、さらにそのフォルダの中にも多くのファイルが入っている。しかも、名前順で整理しても、ほとんどの教員方はファイル名を英数字でつけており、その中から探すとなると一苦労だ。更新日時順にする方法が一番早い手段になる。一方 Wiki では、日本語にも対応しているので探す分には、共有フォルダほど苦労はしない。一覧で探すこともでき、メニューバーを設置していればそこから探すこともできる。

このことから、重要なファイルを置く分には大学の共有フォルダを利用し、ダウンロードの方法などを案内するページには、授業中でも短時間で書き込める Wiki を活用する方法がよいと考えた。

2 ゼミ用 Wiki サイトの制作

(1) 制作目的

まず、私自身が既存のサイトを一目見た瞬間に見にくいと感じたためである。他の福田ゼミ生に聞いてみると、新しく作られたページや更新されたサイトは見やすいが、過去の記事を参照したいと思った時に、見つけ辛いという意見が多くあった。福田先生自身も作ったことは覚えているが、ページ名やどこにそのページがあるか分からなくなっている状態であった。

また、ゼミ選択の際、各ゼミの先生方に話を聞く手段と共に、Wiki を見て事前にゼミの内容を知ってもらえれば話もスムーズになり、選択後のミスマッチを減らせるのではないかと考えた。より確かな情報を提供・共有することによって、ミスマッチを減らすことができ、自分がしたい勉強に力を入れることができ、専門分野も絞れる。

(2) 誰のためにつくるか

対象者は、主に福田ゼミ生をメインとしている。授業で必要になった情報の公開や交換と共に卒業生の声を活かし、卒業論文の参考になるページを目指す。

この他にも、オンラインで様々な人々が編集が可能という Wiki の特徴を生かし、ゼミ生以外や他大学生とも情報交換の場になればと思う。

(3) Wiki の現状認識

Yahoo!JAPAN で検索した結果、多くの大学のゼミで Wiki、その中でも PukiWiki を利用していることがわかった。しかし、実際はゼミでの活用や個人サイトとして Wiki は、Wiki の効果的な運営モデルがしっかりと確立されていないため、管理者や、特にユーザ側が効果的な利用方法を認知できないでいる。個人サイトや福田ゼミの既存のサイトだけ関わらず、PukiWiki を利用したウェブページは公式サイトからインストールしたままのスキンで、画像を変えているだけのものが多かった。しかも、その多くは情報が入り乱れており、分類がきちんとできておらず、ページが整理されていなかった。特にページ名では、数字の半角は記号扱い、全角は日本語扱いされている。そのため半角全角を気にせずページ名を付けてしまうと、数字から始まるページ名を、一覧で見ると記号と日本語と別に分けられ、ばらばらになってしまっていた。

PukiWiki の公式ウェブサイトでは様々なスキンやプラグインをユーザー同士で提案・提供できるのである程度の見栄えは整えることができる。後々使用目的が変わっても、公式サイトに欲しい機能があれば、簡単にインストールでき、追加できる。また、@Wiki⁽⁶⁾では本来の Wiki のアイデアをより発展させ、まとめサイトとしている。

3 制作に至るまで

(1) 制作準備

実際に、ゼミ用のサイトを PukiWiki を利用して制作した。PukiWiki はサーバー上でデータを送るため、MySQL や PostgreSQL などのリレーショナルデータベースマネジメントシステム (RDBMS) を必要としない。また、PukiWiki を運営するために必要な知識はほぼいらず、レイアウトさえ気にしなければダウンロードした分だけで十分だった。見栄えを整えるためには、最低限、pukiwiki.ini.php と pukiwiki.skin.php と pukiwiki.css.php だけを触ればいい。このことから、PHP の知識がある程度あれば、市販されている PukiWiki のテキストを参考にしながら自由にカスタマイズできる。テキストといっても、ほぼ PukiWiki 公式サイトに載っていることをまとめた形になっているだけなので、紙媒体になっている分読みやすかったが、情報の新鮮さからみると PukiWiki 公式サイトと @ Wiki、PukiWiki Plus! を主に活用した。PHP の知識については、福田ゼミやゼミに関連のある授業の内容以上を学ぶ必要はなかった。

(2) 既存のサイトの主な用途

既存のサイトでは、主に以下の用途に使っている。

- ・ 授業で必要になったソフトのダウンロード方法
- ・ 福田ゼミの紹介とゼミのコンセプト、心構え
- ・ ゼミ生への連絡板（ゼミコンパや就職活動について）
- ・ 卒業制作についての連絡、計画

特に授業で必要になったソフトのダウンロード方法は、メモ帳代わりのように気軽に使用されている。Microsoft Word やメモ帳のソフトを

使用し大画面で表示させるよりも、ウェブ上に掲載された方が効率もいい。もし家でも同じソフトをダウンロードしたいと思った時や、その授業を休んでしまった場合でも事前に Wiki ページを見ればとても便利である。これらを考慮しながらサイトの制作にあたった。

(3) 見やすい Wiki サイトの検証

見やすいサイトとはどんなものかを考えた。やはりどのようなウェブページでも、一番最初に目に入るのは、内容よりも全体のレイアウトである。どんなに有益な情報も「見にくい」と思われて読んで貰わなければ意味がない。

図 1 は PukiWiki によって作られたサイトである。しかし、PukiWiki を利用したサイトだということを感じさず、色も爽やかで見やすい。記事の新規作成や編集の制限は、ほぼ管理者のみが編集可能と設定されている。そのため PukiWiki というよりも、HTML で作られた普通のサイトとしての活用をしている。左側にはメニューバーがあり、ツリー構造化されていて見やすい。そのメニューの下には 9 件の更新されたページが表示されるようになっている。そのためメインに表示される文が短くても、スクロールが出てしまう。

文字の色や背景は、カラフル過ぎると目が痛くなり見る気を削ぐ。だからといって、黒くテキストがぎっしり詰まったページは読む気をなくす。図 2 は 3 段組になっている。色合いのため若干見にくく感じるが、左に目次、右に更新履歴、中央にはメインとなっており構成的には見やすい。

次は、逆に見にくいサイトとはどのようなものかという視点から考えてみた。図 3 や図 4 はある大学のゼミの場面で PukiWiki を利用して

いるサイトである。両方の共通点は、公式ページからダウンロードしたスキンをそのまま使用しているという事と、スクロールが長いということである。やはり、できるだけ長いスクロールや横スクロールは心理的に抵抗があるので避けたほうが良いと考えた。

4 制作物について

(1) PukiWiki を使ったサイトの構想

まず、サイト自体を誰でも編集できるページにするか、閲覧のみのページにするかを検討した。既存のサイトでは、全てのページを凍結せず、編集可能な状態であった。しかし、既存のサイトを実際に2年間利用し、編集を行ったのはコンパの参加確認や人文情報学科のホームページを作り直している時ぐらいであった。そのため、閲覧中心にしながらも、編集できるページも分けることにした。

そして、前2つのセクションで述べたことを踏まえた上で、ゼミ用 Wiki サイトの構想を立てた。PukiWiki の公式サイトを含め、ほとんどの PukiWiki で作られたサイトは2段組の左メニューのみであった。その場合メニューと最新のページが一緒になっているか、メインの部分がメニュー代わりになっている。やはりこれはとても見にくい。スクロールしなくてはいけないという手間があるからだ。トップページのスクロールは前のセクションで書いたスクロールと同様に好まれないからである。

そこでまずは、目標として図1と図2を参考にしながらよりよいものを目指した。dev:BugTrack/430⁽⁷⁾を参考にし3段組にした。方法は、まず menu.inc.php と同じものを menu2.inc.php として作成する。menu2.inc.php の function plugin_menu_convert () を function

plugin_menu2_convert () と関数名を変更し、\$menubar となっている変数の全てを \$menubar2 に変更する。次に、pukiwiki.inc.php に \$menubar2 を追加した。左右にバーができ、中身は左バーをメニュー、右バーを更新記事の表示にした。

トップページのメイン部分ではゼミの説明を簡潔にまとめ、左バーをメニューバーとすることによって、ツリー構造を明確にした。文字サイズは、ディスプレイ上で小さい文字を見ると、目が疲れやすいので、通常 10.5pt のフォントサイズをメイン部分は 11.5pt、サイドバーはメインを目立たせるため 10.5pt にした。色使いは、趣味や遊びのサイトではないので、青を基調として清潔感を出した。

また、右バーの更新ページを載せる以外にも、トップページのメイン部分の上部に、重要連絡の項目を加えることによって、ゼミ生が連絡事項を見逃さないように工夫した。

そして、一番苦労したことが、どのように分類するかである。既存のサイトでは、手軽にページを作成できるため分類が疎かになっていたためである。ゼミを決める際に、やはり気になるのはゼミでの勉強の内容の次に、卒業論文でどのようなことを書くかであった。そこでトップページにはゼミの紹介を大々的に載せ、メニューには主に卒業論文関係を載せることにした。

(2) ページの分類方法

右メニューバーでツリー構造を明確にするために、どのように分類するかを検討する必要がある。しかし、ツリー構造化の基準は管理者の主観であるため、閲覧者が求めているカテゴライズになっているとは限らないという弊害もある。そのため、まず何を基準に分けるかが問題で

あった。利用者はやはり主にゼミ生だということを念頭においた。まずは、既存のサイトを一覧表示し、中身を一つ一つ確認した。そして、ツリー構造に整理するために、必要なページと不必要なページを考慮していく。

トップページのメインは、サイトの顔となるページなので、既存のサイトと同様にサイト案内・福田ゼミの紹介・ゼミ生によるゼミの感想とアドバイスを簡単にまとめた。その他の項目はメニューバーからジャンプできるようにした。メニューバーの項目の分類は、「ゼミ卒業生とゼミ生のブログ」「卒論の概要」「卒論」「ゼミコンパのお知らせ」「過去ログ」「簡易掲示板」「BookMark」と大きく7つに分け、さらに各項目に関連のあるページやそれに沿う内容のページを子階層とした。(図5を参照)

ブログの項目に関しては、ゼミ生には決定後、ゼミ生同士の親睦を深めるためや、XMLに関するインターネット技術の一端に慣れ親しんでもらうため、また自己紹介も兼ねて各自でブログを開設する。そのため、出来上がったブログを紹介した上でブログの開設方法のページを子階層にした。また、「卒論の概要」と「卒論」の項目については、卒論の概要の項目では卒論に関するテーマや卒論を書くにあたっての過程を紹介した。卒論の項目では、卒業生の卒論の紹介と、卒業生の卒論に対しての感想を紹介した。「ゼミコンパのお知らせ」の項目では、今後もコンパの回数は増えていくので、メニューバーが無駄に長くなる一方だと考えたため、あえて子階層をメニューバーに表示させず、「ゼミコンパのお知らせ」のページにジャンプしてから更に各年度毎のページにジャンプするようにした。そして、上記の項目に分類できないが、既存のサイトで参考になりそうな情報を「過去ログ」の項目にいれた。この項目は

私的な見解なので、今後どのページに分類または新しい項目を作るかは管理者（福田先生）に任せたいと思う。「簡易掲示板」の項目では、ゼミ生やゼミ生以外でも質問や要望があれば書いてもらえるようにした。管理者が忙しくて見れない、または見逃したとしても、ゼミ生同士で意見を交換できる。簡易掲示板の子階層として、「アンケート」のページを作った。このページでは様々なアンケートを取れるようにした。手始めにサイト自体の見やすさについてを設置し、これを基にサイトの運営方針を固めればと思ったためである。「BookMark」の項目では、検索ポータルやコンパイラ関連のリンクを貼った。今後、他のゼミのサイトや他大学ともリンクを貼り、活発になればと思う。

(3) 制作過程での工夫

(i) 不要だと考えられるもの

PukiWiki の公式サイトからダウンロードしたものをそのまま使うには、やはり余計なものや足りないものがあった。余計なものは削除し、足りないものは公開されているプラグインや、その公開されているプラグインを自分なりに応用させることが必要だった。そこで今まで学んだ HTML・CSS・PHP の知識が役に立った。

セクション 3.1 の『PukiWiki を使ったサイトの構想』で 3 段組にしたことについては既に述べた。しかし、3 段組にしたからといって、見やすく、利用しやすいサイトになったわけではない。ダウンロードしたままでは、フッター部分に、リンクされているページや添付されている画像の名前が表示される。また、ヘッダーの下に表示されているナビゲーターと同じ機能がフッターのツールバーにも存在している。これらは必要ないように思えた。なぜならば、リンクしているページはフッ

ターで表示しなくても、メインやメニューの部分で表示されるようにしている。添付画像も同様である。アイコンは、複製のアイコンと RSS のアイコン以外のアイコンは全てヘッダー下のナビゲーターにあるので必要性を感じなかった。そのためこれらは削除した。(図 6 を参照)

(ii) レイアウトについて

ナビゲーターとツールバーの中身に着目した。管理者が主に使うものは下、ユーザが主に使うものを上にした方がよいのではと考えた。しかし、凍結や差分やバックアップは管理者のみだとはっきり言えるが、その他の機能の必要性が不確かであった。3 回生から既存のサイトを利用しているが、自分で新規作成したこともなく、編集といえばゼミコンパの参加確認や人文情報学科のサイト再構築の時などで、ほぼ使用しなかった。どちらかといえば、ゼミ生でも閲覧中心であった。そのため、ナビゲータにある編集関連のものは下に設置することにした。トップや一覧・単語検索・最終更新・ヘルプは、閲覧のみの人でもよく使用するので、そのまま上に表示させることにした。これら 5 つ以外をフッター部分に表示させた。その際、ダウンロードのままだと、ボタンの間に を使用していた。半角スペースと同じ役割のようだが、ウィンドウ幅を縮めるとレイアウトに差が出た。横スクロールバーが表示される。また、文字を拡大した場合だとエリアごと大きくなってしまう。そのため は使用しなかった。

次に、既存のサイトではヘッダー部分にあった画像を左メニューバーに貼り、福田先生のブログにジャンプするリンクを貼った。しかし、始めに Wiki 上で画像を貼りリンク付けをしたが、トップページ以外のページや新しいページにジャンプした際、画像が表示できなかった。それは、MenuBar を 1 つのページとして見ているので、各ページに画像

をアップロードしなくては表示できないためであった。既にあるページの場合は、画像をアップロードしておけばいいが、これから新規作成した場合はとても不便だと感じた。そのため、Wiki 上でメニューだけを作り、画像を貼る場合は `pukiwiki.skin.php` に追加することにした。

(iii) 編集の制限

編集の制限は、それほど厳しく設定しなかった。差分の機能があるというのもあるが、厳しい制限をかけるほど重要な情報はないと判断した。また、制限を厳しくするより授業のメモ帳的扱いが行いやすいという方に重点を置いた。

パスワードによって凍結したページは以下の通りである。

- ・ 初期設定時から存在するページ
- ・ トップページ
- ・ 過去の卒論関係のページ
- ・ 春休み・G.W 課題のページ
- ・ トラックバックの仕組みやブログの開設方法など、説明するページ

(iv) 追加したもの

次に、メニューの項目に自宅のパソコンにダウンロードしておく便利なソフトの紹介ページを作成した。それは、4 回生になり卒業論文に着手する際、自宅でも卒業論文を書きたいと思ったことがきっかけだった。福田ゼミでは論文を TeX で作成する。しかし、TeX のソフトは自宅にダウンロードしている人が少なく、ダウンロードする時点で時間がかかってしまった。TeX 以外でも Python やサクラエディタといった、ゼミやゼミの関連授業で使ったソフトの紹介とダウンロード方法を簡単に案内する項目を制作した。

5 まとめ

(1) アンケートによる評価

3 回生と 4 回生の一部に既存のサイトと私が制作したサイトを比べながらアンケートを実施した。内容は以下の通りである。

(4 回生のみ)

1. PukiWiki (YukiWiki や MediaWiki など他の Wiki を含む) について

1.1 PukiWiki 以外の CMS を閲覧・利用したことがありますか。

(XOOPS blog その他 () ない)

1.2 ゼミで利用する場合、上記のものと PukiWiki どちらが向いていると考えますか。

(ないと答えた方は、HTML のページと比較してください。)

1.3 上記の回答の理由を教えてください。

1.4 PukiWiki よりもゼミ用サイトとして活用した方がいいと思うツールがあれば理由と共に教えてください。

(3 回生・4 回生)

2. 制作したサイトについて

2.1 現在使用されている Wiki サイトの使用頻度

(見たことがない たまにみる (月・週 回) 先生から連絡があった時のみ) から選択

2.2 現在使用している Wiki サイトに書き込んだことがあるか

(ある・ない)

2.3 「ある」答えた方に質問です。どのような書き込みをしましたか。

2.4 更新ページ以外のページを見るか

(見る 見ない) から選択

2.5 上記の回答の理由

2.6 こうしたらもっとゼミ用 Wiki を利用するようになるだろうと思う提案があれば書いてください。

2.7 改良したサイトで更に改善して欲しい点

2.8 気付いた点

(i) 評価と意見

アンケートを見る限り、既存のサイトと新しく制作したサイトを比べると、見栄えや取っ付き易さは歴然としている。このことから、改善の第一段階としての情報が入り乱れていた状態を改善できたといえる。

ただ、私自身が4回生なので、現在必要な卒業論文をメインに考えてしまった。3回生にアンケートした際、卒業論文以外の他の情報が少ないという指摘を受けた。この問題は、やはり知らぬ間に独りよがりになってしまっていたと反省すべき点だと感じた。とともに、このような場合こそ Wiki の特徴を活かせる場だと感じた。個人個人で足りない気付けば、新しいページを簡単に作れる。そのためには、分かりやすいスペースに新しいページの作り方を紹介する必要がある。また、PukiWiki にはバックアップの機能もあるので、悪意のあるページが作成された場合でも消すこともできるということを書いておけば、気軽に編集できるのではと感じた。

ゼミ生でも、サイト自体は知っているが、連絡が来なければサイトを見ないという人がほとんどだった。また、Wiki で作られていることは知っているものの、実際にサイトに書き込みをしている人はいるにはいるが、活発に書き込んだのは、ゼミコンパの参加確認や、3回生ゼミでの人文情報学科のサイトの作り直しの時のみであった。このことから、既存のゼミ用 Wiki サイトは、ほぼ閲覧中心だといえる。これは、まだウェブページを編集することへの抵抗感からだ。HTML 形式で書かれ

たウェブページのように、権限者は記事を投稿した人だと思ってしまうことや、書いた内容が公開されること、他の人が書いたページに手を加えることに抵抗があるためだと思う。しかし、利用すればするほど、文書が精査されていくという Wiki の特性も生かしたい。ゼミ生の書き込みやすい雰囲気作りも大切で、このようなゼミ生の巻き込みが難しい点だと感じた。

他には、改良したサイトは、既存のサイトと比べると見やすく、初心者に優しいというイメージを持ってもらえた。XOOPS などの CMS と比べ、「ID やパスワードがいらないという点で楽。」「どこからでも書き込めるのは楽しい。」という意見もあった。

福田ゼミの 4 回生にアンケートした結果、Wiki 以外の CMS を利用したことのある人は、ゼミ生 XOOPS を利用したことのある人の意見では、「メンバー登録ができ、ゼミ生同士だけでのコミュニティとして使うにはいい」という意見もあった。しかし設置に少し手間が掛かったので、ゼミで利用するなら Wiki の機能で十分だとも書いていた。

私が工夫した点であげた、自宅のパソコンにダウンロードしておく便利なソフトの紹介ページは 4 回生に実施したアンケートで好評だった。また、4 回生の数名にアンケートで制作した Wiki サイトのアドレスを教えたことによって、制作したサイトの利用者が増えた。その数名に理由を尋ねてみると、まとめられているから見やすいという答えが返ってきた。4 回生で、ちょうど今までの卒業論文についてを知りたいということもあるのだろうが、やはり見やすさは重要だと感じた。第一段階の情報が入り乱れた状態を改善したことによって、第二段階の、もっと活用できないかという点は完璧といえないものの、半分は改善できたと思われる。

(ii) 評価を聞いて修正した点、しなかった点

3 回生にアンケートを実施した結果、様々な要望があった。まずは、最新の件数を増やして欲しいという要望があった。私は、実際使用し始めると更新回数が一気に 5 件や 10 件も増えるということは滅多にないと思ったので、5 件が妥当だと判断した。しかし、増やして欲しいという要望があったことと、PukiWiki のオンライン上で簡単に操作できるという手軽さから、左メニューバーとのバランスを考え 8 件に増やした。後々、8 件では多すぎる、または少なすぎるといったことになった場合 MenuBar2 の数字を変更すればいいだけなので、これは実際に運用しながら簡単に調節していけばいい。

次に、先生からの重要連絡の欄を作って欲しいという要望があった。左のバーに最新のものが 8 件表示されるようにしていたが、やはりこれだけでは分かりにくく、更新されたページが重要な連絡とは限らない。あまりないと思うが、更新件数が一気に増えれば最新の欄から消えてしまう。このことから必要だと判断しトップページ、メイン部分の一番上にスペース加えた。

次に、3 回生・4 回生・ゼミ生全員などの対象者をつけて欲しいという要望があった。3 回生や 4 回生と断定した項目を作ってもよかったが、これは左バーの目次から個人で判断してもらいたい。というのも、卒業論文は 3 回生でも全く関係ないと言い切れないと思ったことと、明確に分類できる要素がなかったためである。

(2) 今後の問題と展望

今後の問題として、このまま Wiki でサイトを運営していく必要があるのかが問われる。Wiki が多くの大学のゼミで利用されているのは、

何よりもすぐにサイトができるという手軽さが後押しをしている。また、livedoor では livedoor wiki が登場し、PHP や HTML を学んでいない人でもホームページを作っている人が増えた。Wiki を他の CMS と比較検討すると、複数のユーザをの情報を 1 つのウェブ上にまとめる事ができる中規模のコミュニティで情報を共有し合う場合には最適なウェブコラボレーションツールだと私は考える。Wiki は、信頼できるユーザの比率が上がればあがるほど、その能力を発揮するので、今後いかに情報交換をするのかも重要だと感じた。

今後のゼミ用サイトのテンプレートになればとも、考えた。神奈川大学のウェブサイトでは、工学部の学科ごとに学内情報など、学生・一般の方への情報を掲載している。その中でも各学科の運営するホームページで、建築学科のサイト⁽⁸⁾は PukiWiki によって作られていた。一見普通の HTML のサイトで気付かなかったが、フッター部分に PukiWiki のアイコンが表示されていた。実際に一般の人が編集や削除などはパスワードによって管理されていた。学科というゼミよりひと回り大きいコミュニティに活用されていることを知って、ますます学校レベルでの Wiki の可能性を感じた。

これからゼミで Wiki を使用するにあたって、ゼミ生に自分のプロフィールを作ってもらうのはどうかと考えた。図 3 で紹介した Wiki で作られたゼミ用サイトでは、各自のプロフィールのページが作られている。普通は、コメントすると BracketName⁽⁹⁾になり、名前の後に「？」が付く。しかし、あらかじめプロフィールのページを作っておくと、名前からプロフィールのページに飛ぶことができる。福田ゼミでは、一番最初に自己紹介も兼ね、各自でブログを作る。このブログのページにジャンプする前の段階で、Wiki で簡単にプロフィールを先に作ってお

くと、ブログを制作した後にもブログ自身を活用でき、ゼミ生以外が利用した時にも福田ゼミにはどんな人がいるのか分かっていいのではと感じた。

Wiki はゼミ専用サイトの運営にも活用できるが、もっと活用した。Wiki だけで全てをまかなうのではなく、他の SNS やブログなどのツールと弱点を補完しながら運営するとゼミだけでなく、多くの活用方法がある。

(3) 自己評価

サイトの制作とそのアンケートを終え、ゼミ用 Wiki の有効性について改めて考えてみた。やはり、実際の授業の場で、リアルタイムに出てきた問題に対応できるのは大きな利点だと思う。

反省する点として、アンケートの質問項目に不備な点が多かったことがあげられる。特に、CMS との比較はできたが、SNS との比較ができていなかった点である。なので私的見解になってしまうが SNS と比較してみる。SNS の代表と知られているミクシィでも、ゼミのコミュニティが多数存在する。CMS よりもミクシィ⁽¹⁰⁾の方が流行りという事もあり、チェックする割合は圧倒的にミクシィの方が多く、身近に感じる。一時期私も、ミクシィでゼミのコミュニティを作れば良かったことがある。ミクシィでゼミのコミュニティを作り、連絡掲示板として使うのも 1 つの手として使うのもいいと思った。ミクシィで作ったゼミのコミュニティは、教員本人が管理人の場合もあれば、ゼミ生が管理人の場合もある。コミュニティへの参加は管理人の承認が必要ないように設定もでき、小規模なコミュニティとして使える。しかし、やはりミクシィは遊び、趣味、プライベートという色が濃いように思える。そのた

め、私はあまりミクシィでのゼミコミュニティを公式に採用するのはあまりよくないと思った。また、一般の人にゼミの紹介として使用するにしても、ミクシィは原則 18 歳以上のみの参加になっているので、高校生は見れない。一般の人でもミクシィに登録していないと見れない。そのため、ゼミ紹介としての面ではミクシィだけではまかなえず、一般サイトの両方を運営するには二度手間になってしまう。

ここまで分析・試行した結果、ゼミでの Wiki を利用することは管理者にとっても利用者にとっても手間を省くことができる。また、書くということが同時に読まれるということに繋がっていることも利点であると考えた。それは、ゼミ生が書き込んだ場合、掲示板のように書き込んだ瞬間から公開されていくので、いつも「読まれている」という意識が生まれ、読みやすい文章の書き方を自然に学べると思ったためである。そして、それがレポートの作成の力にもなると考えた。

ただ、Wiki を利用し、Wiki について多く学んでいくうちに、Wiki にはまだまだ多くの可能性もあり、ゼミ用のサイトだけでなく、他の個人的サイトや会社としての利用にも有効だと感じた。題目ではゼミ用 Wiki の有効性についてと限定した。しかし、ゼミでも十分有効であり、またゼミだけでなく、これからもっと多くのことに利用されていくことが予想できた。

注

- (1) Wikipedia : <http://ja.wikipedia.org/>で検索
- (2) What You See Is What You Get の略。ディスプレイに現れるものと処理内容(特に印刷結果)が一致するように表現する技術。
- (3) Wikipedia:<http://ja.wikipedia.org/wiki/PukiWiki>
- (4) IT 用語辞典 : <http://e-words.jp/w/XOOPS.html>
- (5) kh.log:<http://www.kharakawa.com/kh.log/archives/2005/08/pukiwiki.html>
- (6) アットウィキ : <http://atwiki.jp/>
- (7) PukiWiki-dev : <http://pukiwiki.sourceforge.jp/dev/>
- (8) 神奈川大学工学部建築学科 : <http://www.arch.kanagawa-u.ac.jp/>
- (9) [[]] (二重カッコ) で括り、ページ名とする書式。既に作成されているページ名だと、そのページへのリンクとなる。未作成のページ名の場合は、そのページ名を新たに編集するための入り口として機能する。
- (10) mixi : <http://mixi.jp>

文献表

大河原哲

2006 『PukiWiki による Web コラボレーション入門』秀和システム

ケイズプロダクション

2006 『Wiki でつくるかんたんホームページ』九天社

シーズ

——ゼミ用 Wiki の有効性について——

2005 『Web 配色事典 Web セーフカラー編』技術評論社

緑川信之

1999 『情報検索の考え方』 勉誠出版株式会社

竹添 直樹

2006 『入門 Wiki みんなで投稿/編集できる Web の作りかた』

毎日コミュニケーションズ

CNET Japan

<http://japan.cnet.com/>